

全市的なアンケート調査結果

I. 全市的なアンケート調査の実施概要

1) 対象者

① 15歳以下の子ども及びその保護者

無作為抽出した市内在住の15歳以下の子ども及びその保護者 3,000人

② 一般市民

無作為抽出した16歳以上の市民 3,000人

③ 教員

各務原市内の公立小中学校に勤務する全ての教員 691人

2) 配付方法

①②③ともに、郵送により配付

3) 実施期間

①②について

8月中旬 アンケート配付

8月29日(金) アンケート回答期限

③について

9月上旬 アンケート配付

9月26日(金) アンケート回答期限

4) 実施結果

実施した結果それぞれのアンケート回答数は以下の通りである。

表 回答数

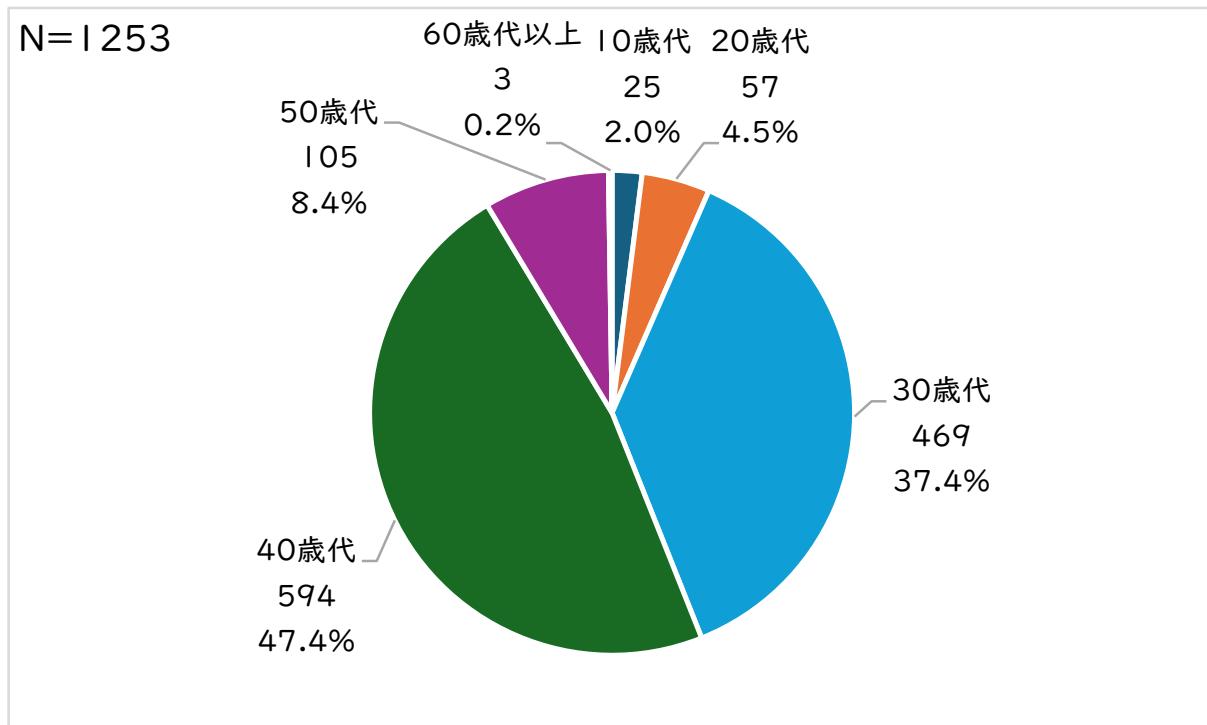
アンケート対象	配布数	回答数	回収率
① 15歳以下の子ども及びその保護者	3,000人	1,253人	42.9%
② 16歳以上の市民	3,000人	748人	25.7%
③ 教員	691人	656人	94.9%

2. アンケート結果

1) 15歳以下の子ども及びその保護者

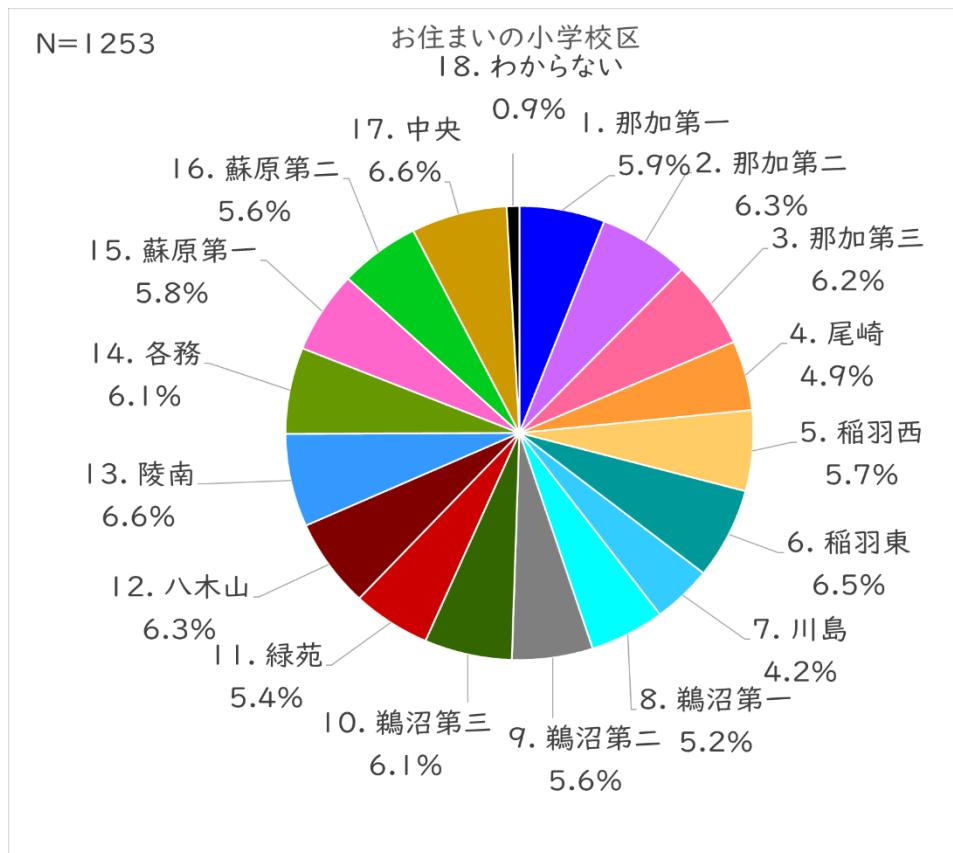
① 問1 あなたは現在おいくつですか。(1つだけ選択)

► 30歳代と40歳代から多く回答されている。



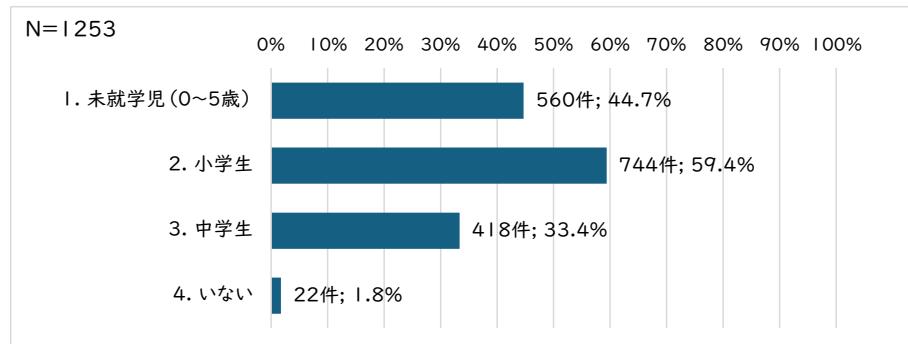
② 問2 あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。(1つだけ選択)

► 全ての小学校区で幅広く回答されている。



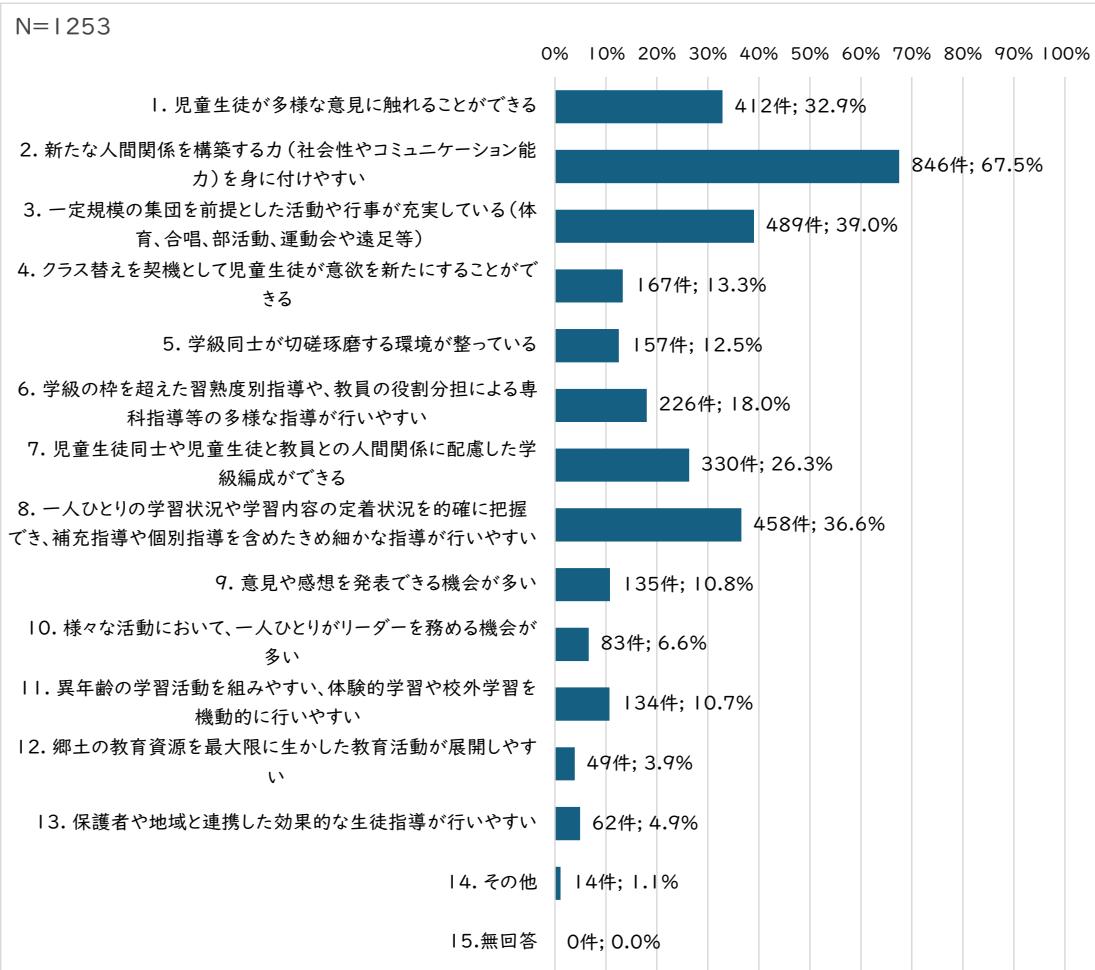
③ 問3 あなたと同居している家族に次の年齢(学年)の方はいますか。(いくつでも選択可)

▶ 小学生が最も多い結果となっている。



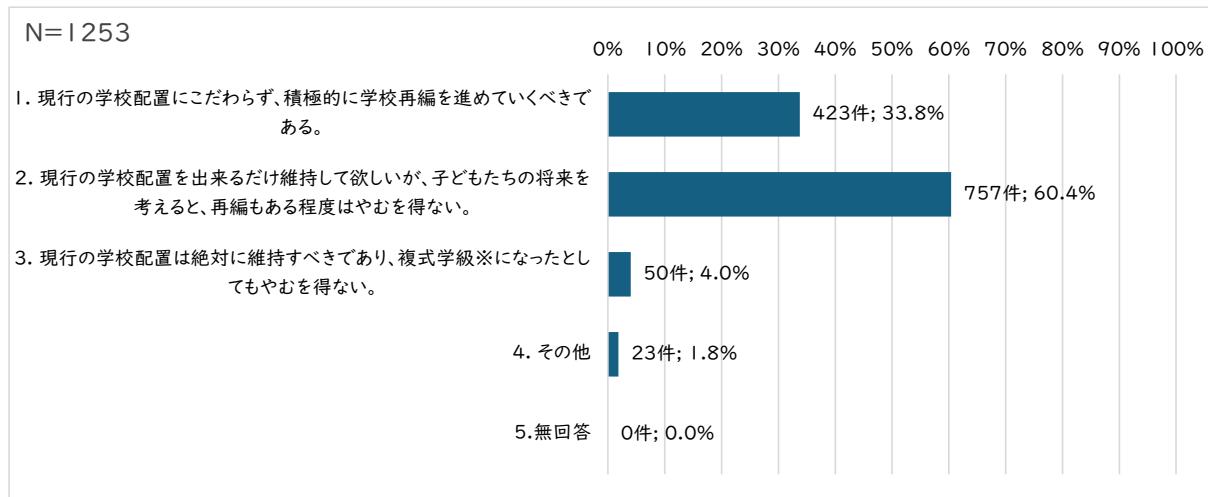
④ 問4 子どもたちの教育環境について、特に重要だと考えるものをお選びください。(3つまで選択可)

▶ 「2. 新たな人間関係を構築する力(社会性やコミュニケーション能力)を身に付けやすい」や「3. 一定規模の集団を前提とした活動や行事が充実している(体育、合唱、部活動、運動会や遠足等)」、「1. 児童生徒が多様な意見に触れることができる」等、一定規模で実現できる教育環境が特に重要と考えている傾向がある。一方で「8. 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい」といった事項についても重要と考えている傾向がある。



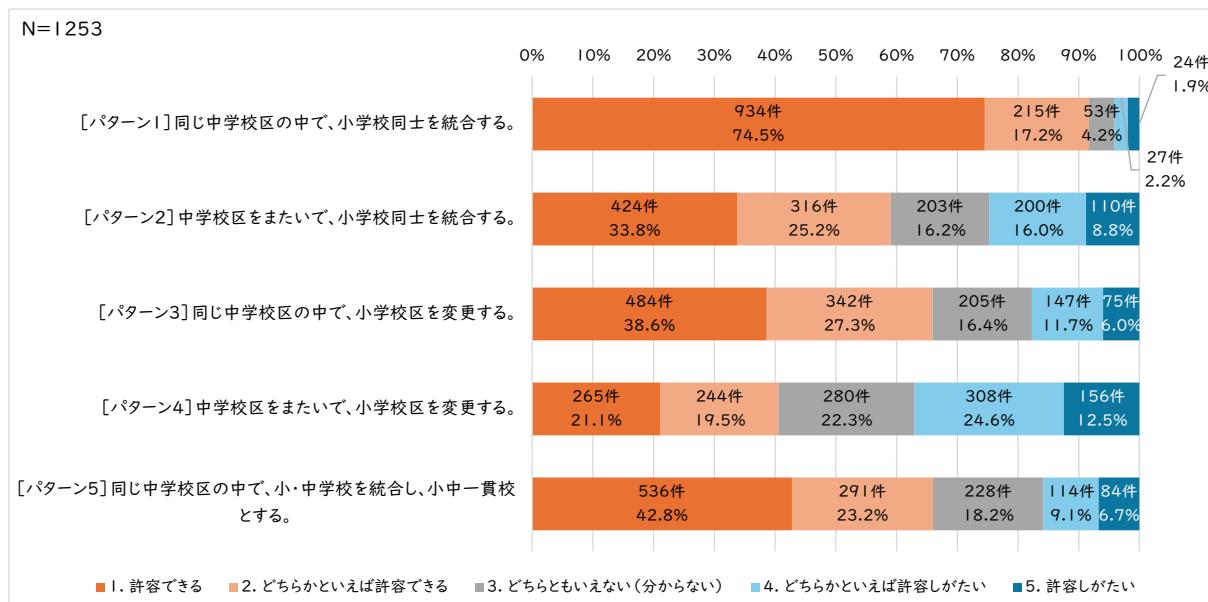
⑤ 問5 児童生徒数の減少やそれに伴う学級数の減少が推測されるなか、子どもたちにとってよりよい教育環境とするために、今後どのようにすることが望ましいと考えますか。(1つだけ選択)

▶ 「1. 現行の学校配置にこだわらず、積極的に学校再編を進めていくべきである。」と「2. 現行の学校配置を出来るだけ維持して欲しいが、子どもたちの将来を考えると、再編もある程度はやむを得ない。」で合わせて9割以上を占める結果となっている。



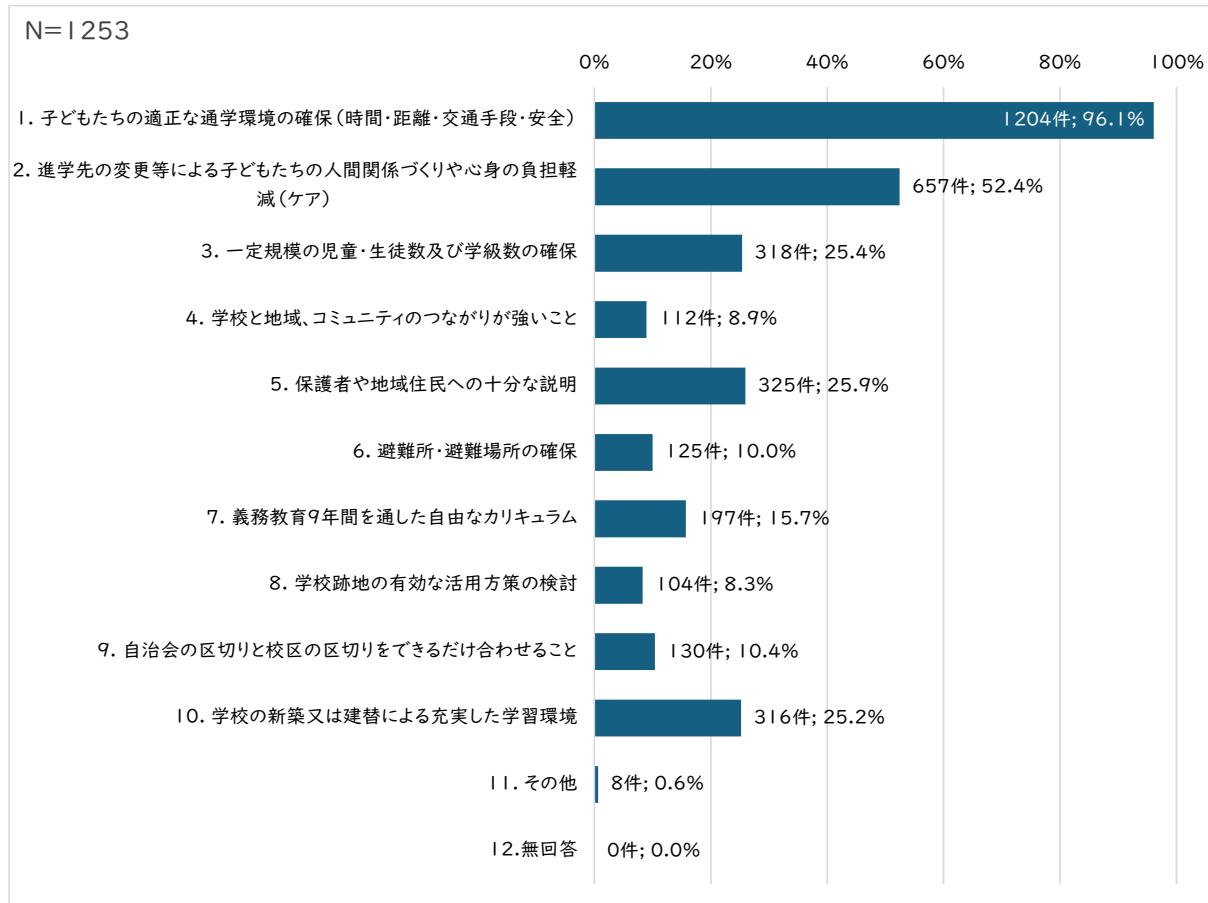
⑥ 問6 仮に、あなたのお住まいの近くの学校が再編の対象校になったとします。学校の再編には、色々なパターンが考えられます。下記にいくつかの再編パターンを例示しますので、それぞれのパターンについて、許容できるかどうか、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(1つだけ選択)

▶ パターン4以外は全て「1. 許容できる」と「2. どちらかといえば許容できる」の合計が半分を超える結果となっている。特にパターン1については「1. 許容できる」が7割を超える結果となっている。また、2番目に高い結果としてパターン5の小中一貫校が挙げられた。



⑦ 問7 再編が行われる場合、重視すべき事項について、当てはまるものをお選びください。(3つまで選択可)

▶ 「1. 子どもたちの適正な通学環境の確保(時間・距離・交通手段・安全)」が最も重視すべき事項として挙げられている。また、「2. 進学先の変更等による子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減(ケア)」も他の選択肢と比べ、割合が高い結果となっている。



⑧自由意見について

自由意見について主に以下の内容に関する意見がきかれた。

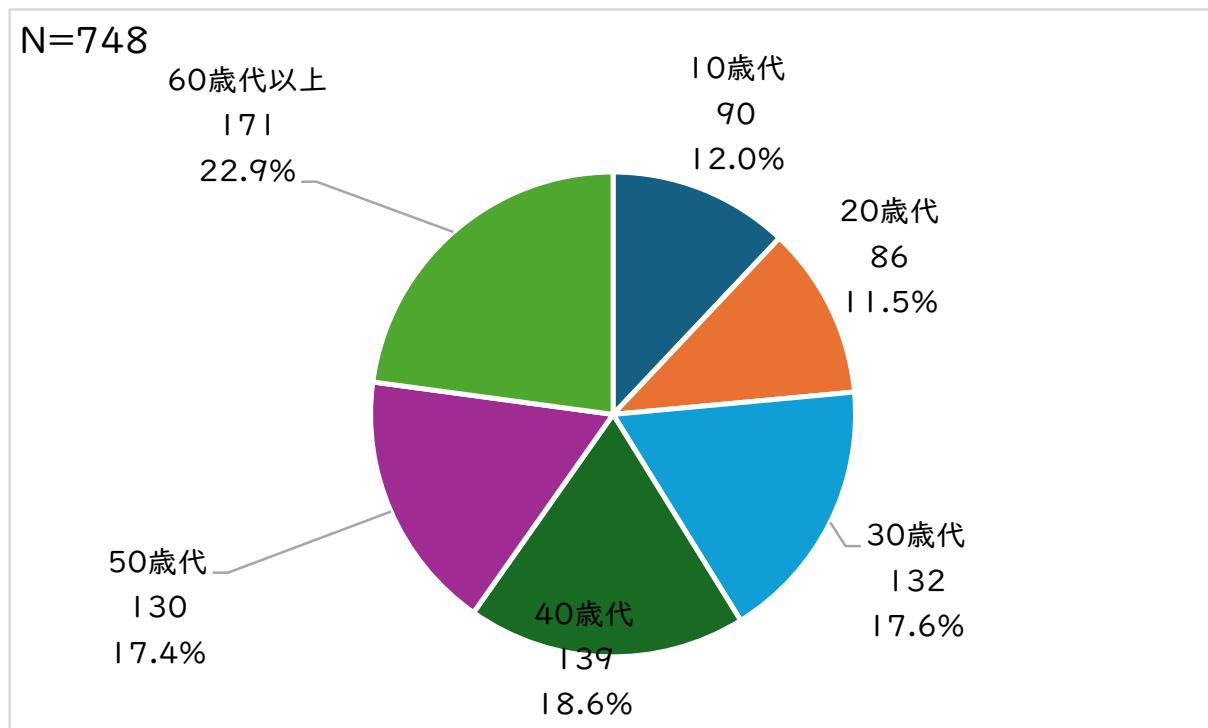
表 主な自由意見の内容

カテゴリー(多い順)	件数
適切な通学環境の確保	72 件
学校再編における配慮事項	53 件
学校規模	51 件
学習環境の改善・充実	29 件
スクールバスの導入	28 件
進学先の選定	25 件
学校区割	18 件
市の施策の推進	17 件
意見の収集・交換	14 件
小中一貫の推進	10 件
保護者・地域との連携	10 件
学校跡地の利活用	9 件
教職員の負担軽減	9 件
再編時期	8 件
その他	35 件
合計	388 件

2) 一般市民

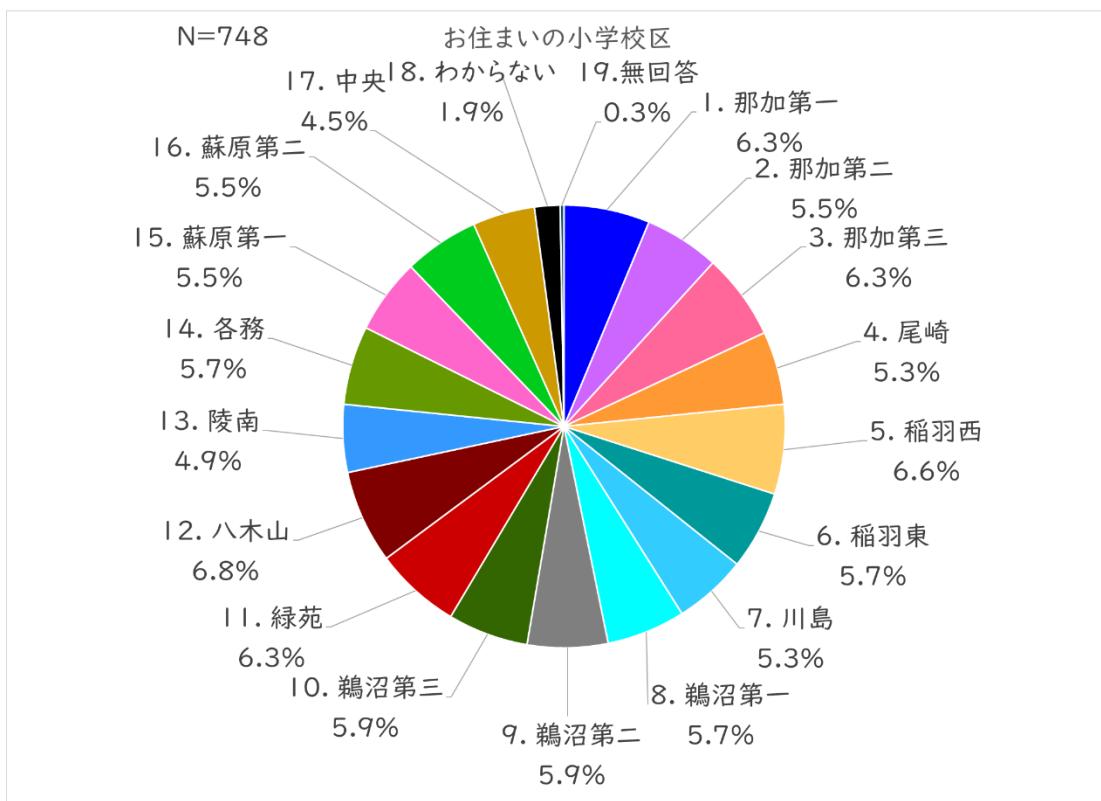
①問1 あなたは現在おいくつですか。(1つだけ選択)

► 10歳代～60歳代以上まで幅広く回答されている。



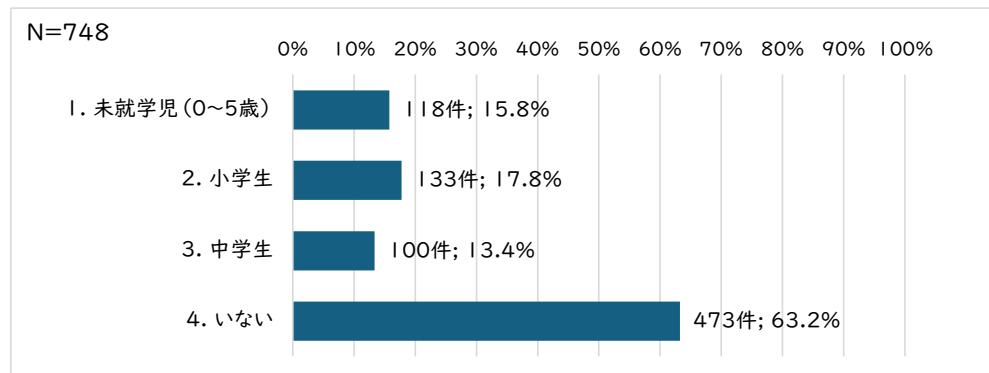
② 問2 あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。(1つだけ選択)

► 全ての小学校区で幅広く回答されている。



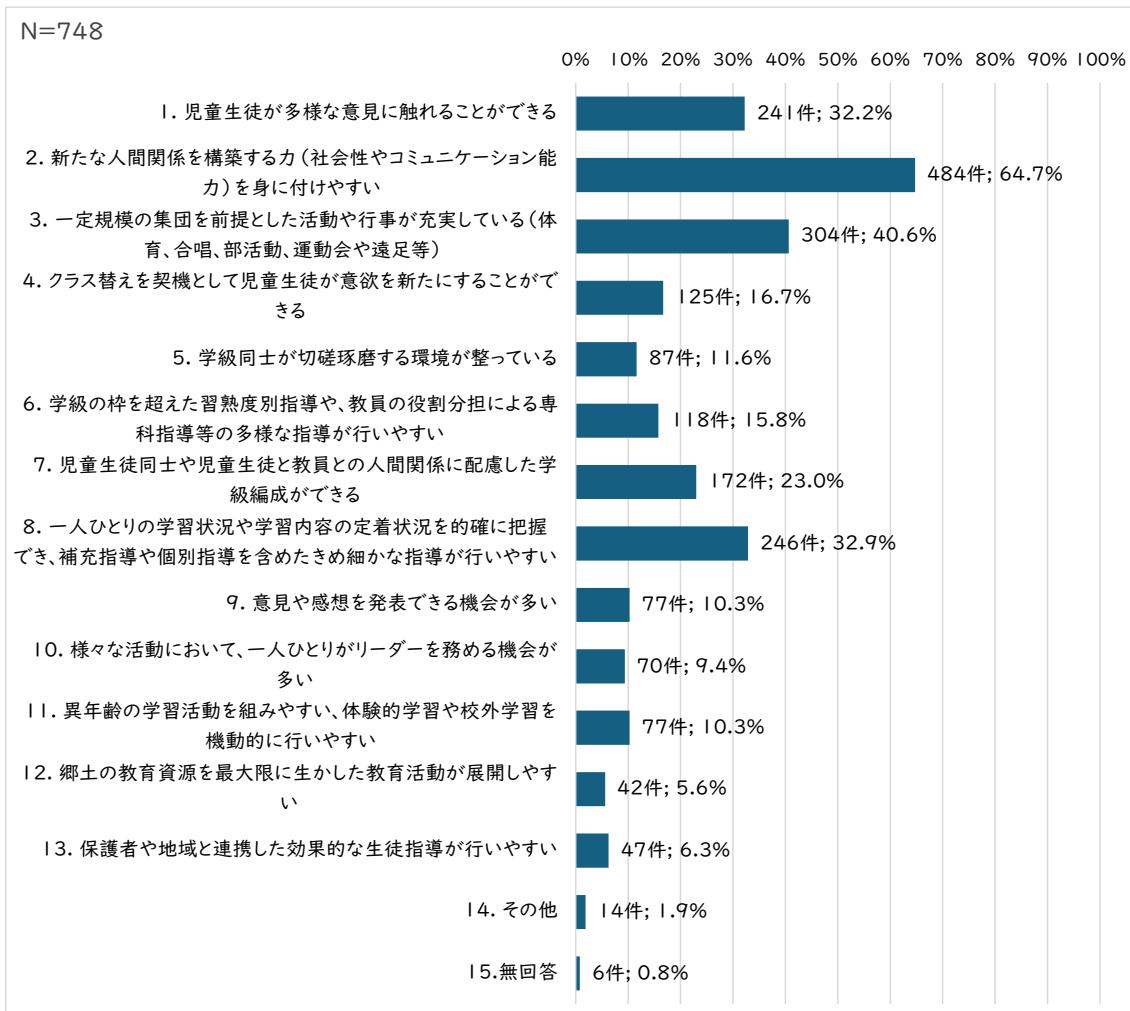
③ 問3 あなたと同居している家族に次の年齢(学年)の方はいますか。(いくつでも選択可)

► 半分以上が「いない」と回答している。



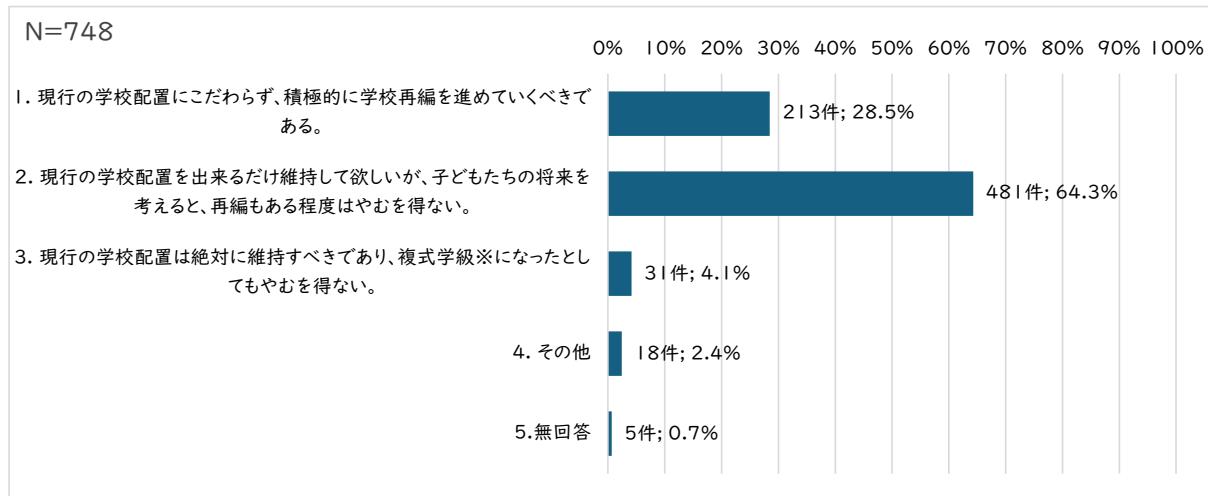
④ 問4 子どもたちの教育環境について、特に重要だと考えるものをお選びください。(3つまで選択可)

► 「2. 新たな人間関係を構築する力(社会性やコミュニケーション能力)を身に付けやすい」や「3. 一定規模の集団を前提とした活動や行事が充実している(体育、合唱、部活動、運動会や遠足等)」、「1. 児童生徒が多様な意見に触れることができる」等、一定規模で実現できる教育環境が特に重要と考えている傾向がある。



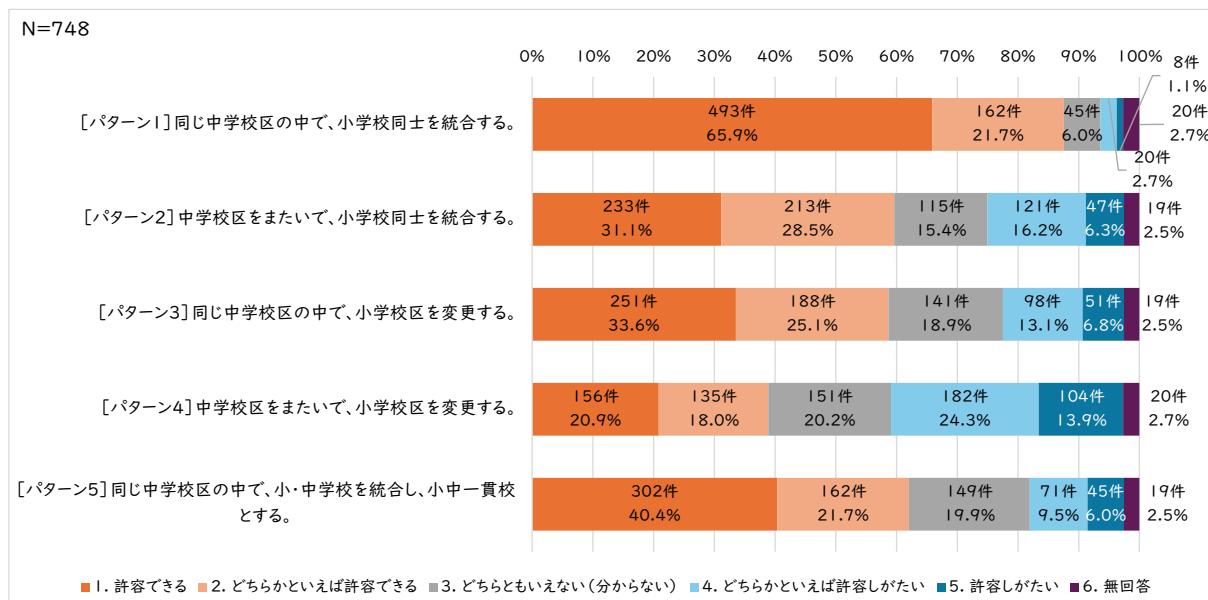
⑤ 問5 児童生徒数の減少やそれに伴う学級数の減少が推測されるなか、子どもたちにとってよりよい教育環境とするために、今後どのようにすることが望ましいと考えますか。(1つだけ選択)

▶ 「1. 現行の学校配置にこだわらず、積極的に学校再編を進めていくべきである。」と「2. 現行の学校配置を出来るだけ維持して欲しいが、子どもたちの将来を考えると、再編もある程度はやむを得ない。」で合わせて9割以上を占める結果となっている。



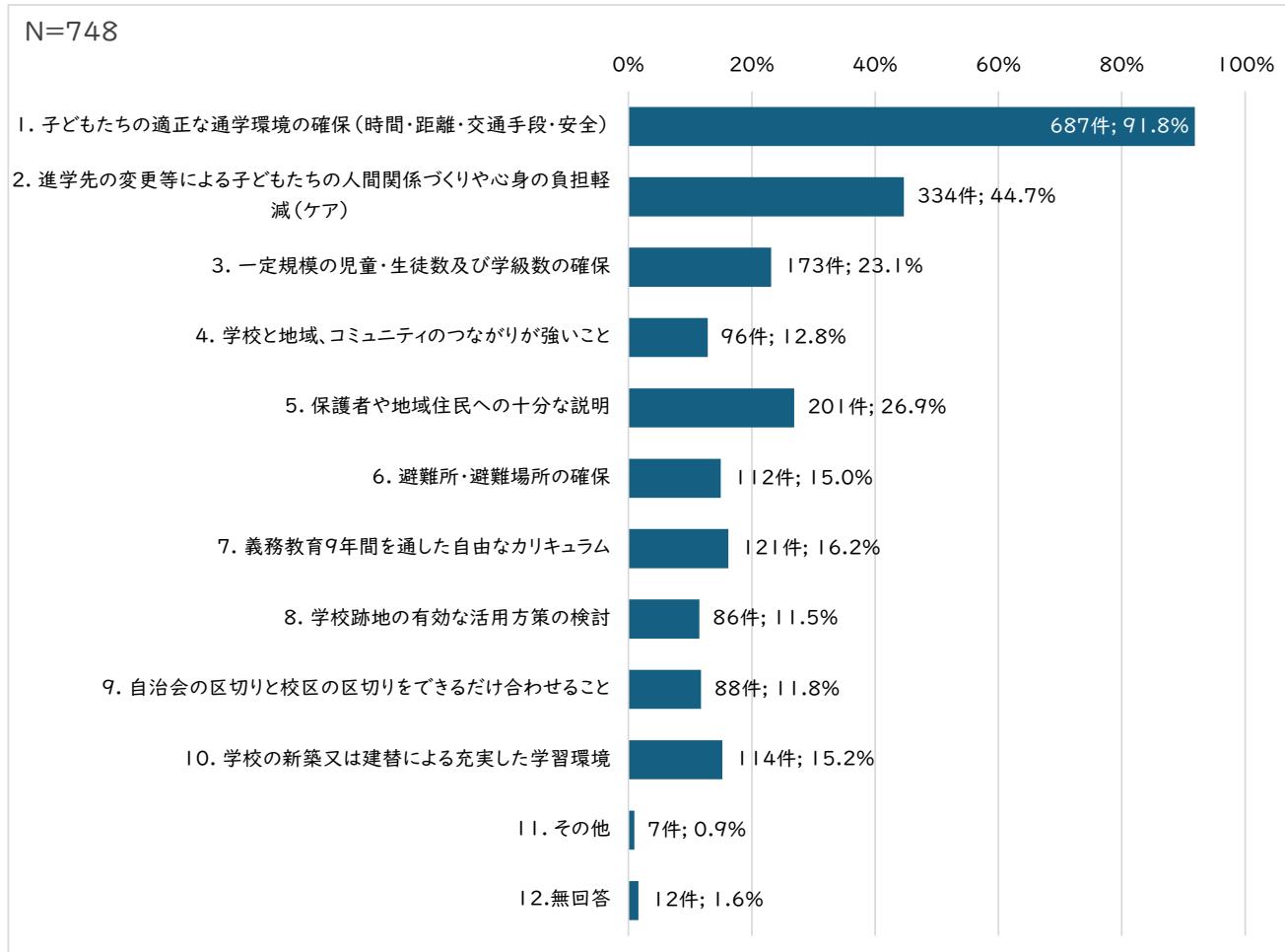
⑥ 問6 仮に、あなたのお住まいの近くの学校が再編の対象校になったとします。学校の再編には、色々なパターンが考えられます。下記にいくつかの再編パターンを例示しますので、それぞれのパターンについて、許容できるかどうか、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(1つだけ選択)

▶ パターン4以外は全て「1. 許容できる」と「2. どちらかといえば許容できる」の合計が半分を超える結果となっている。特にパターン1については「1. 許容できる」が6割を超える結果となっている。また、2番目に高い結果としてパターン5の小中一貫校が挙げられた。



⑦ 問7 再編が行われる場合、重視すべき事項について、当てはまるものをお選びください。(3つまで選択可)

- 「1. 子どもたちの適正な通学環境の確保(時間・距離・交通手段・安全)」が最も重視すべき事項として挙げられている。また、「2. 進学先の変更等による子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減(ケア)」も他の選択肢と比べ、割合が高い結果となっている。



⑧自由意見について

自由意見について主に以下の内容に関する意見がきかれた。

表 主な自由意見の内容

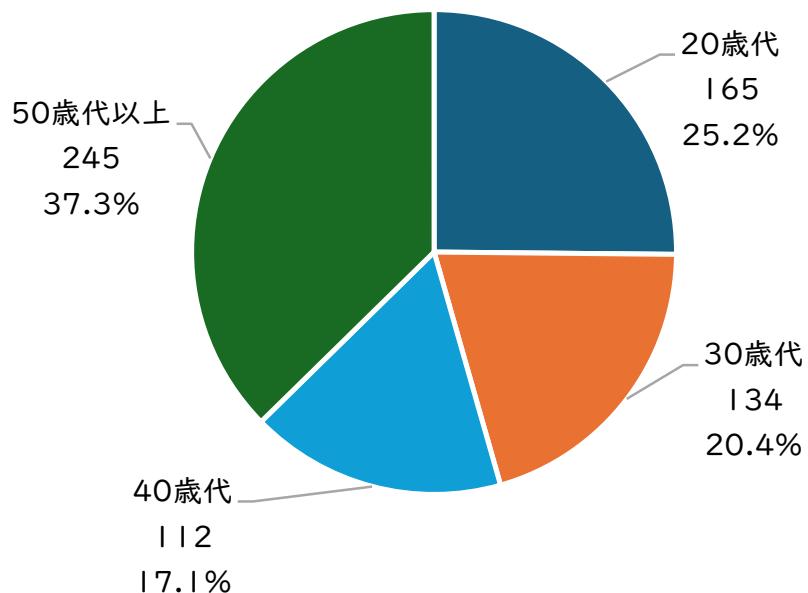
カテゴリー(多い順)	件数
適切な通学環境の確保	41 件
学校規模	33 件
学校再編における配慮事項	26 件
学習環境の改善・充実	23 件
保護者・地域との連携	17 件
スクールバスの導入	15 件
市の施策の推進	13 件
進学先の選定	10 件
学校区割	10 件
意見の収集・交換	8 件
教職員の負担軽減	6 件
学校跡地の利活用	5 件
再編時期	5 件
小中一貫の推進	4 件
その他	25 件
合計	241 件

3) 教員

①問1 あなたは現在おいくつですか。(1つだけ選択)

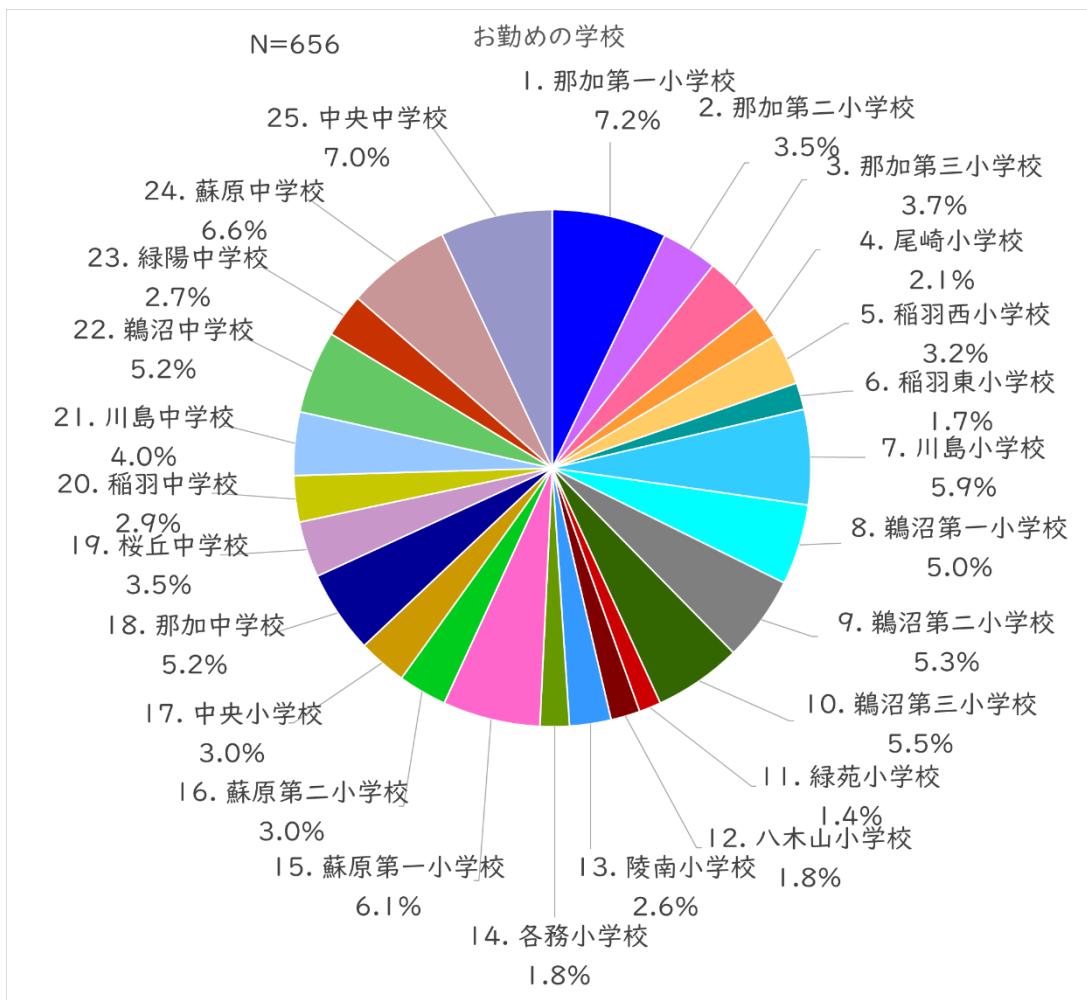
► 50歳代以上が最も多く、次いで20歳代が多い結果となっている。

N=656



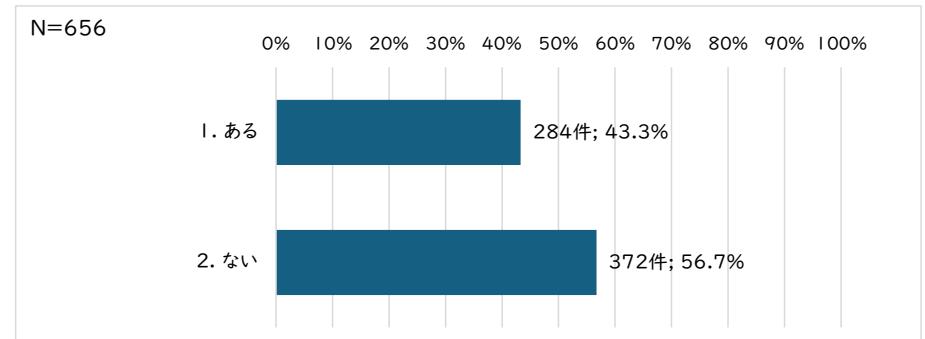
② 問2 あなたが現在お勤めの学校はどちらですか。(1つだけ選択)

► 全ての小学校区・中学校区で幅広く回答されている。



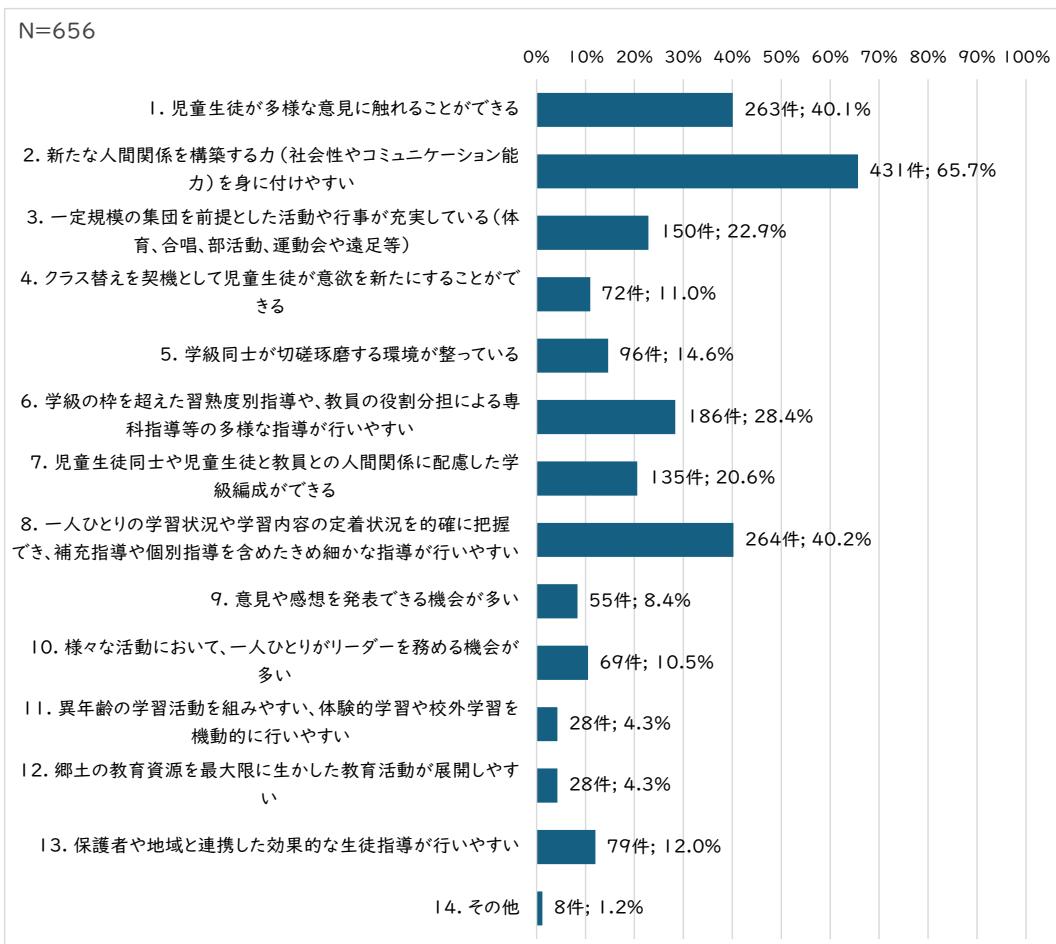
③ 問3 これまでに、単学級の学年が存在する学校への勤務経験はありますか。(1つだけ選択可)

► 勤務経験がない人が半分以上を占めている。



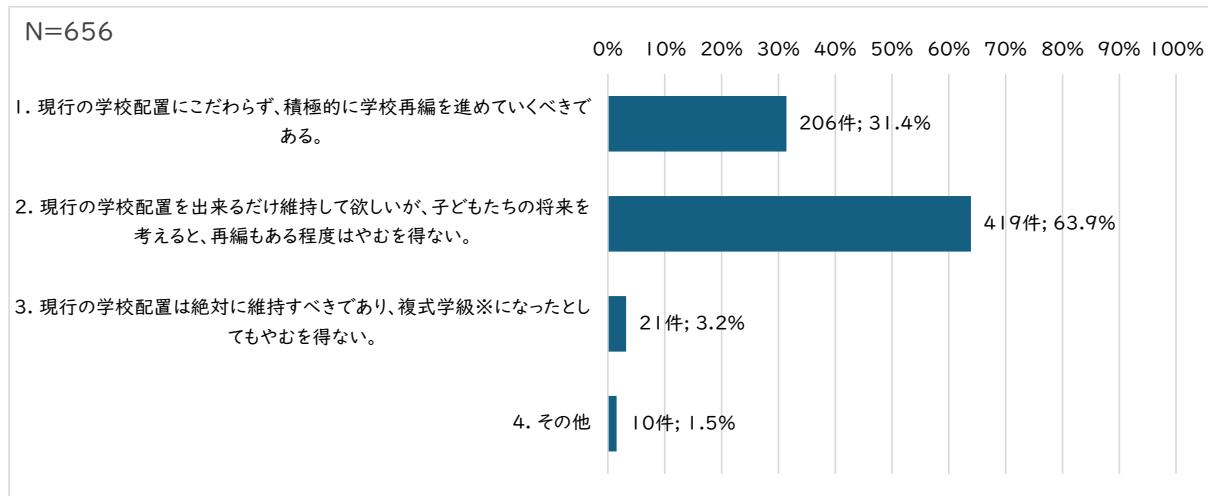
④ 問4 子どもたちの教育環境について、特に重要だと考えるものをお選びください。(3つまで選択可)

► 「2. 新たな人間関係を構築する力(社会性やコミュニケーション能力)を身に付けやすい」や「1. 児童生徒が多様な意見に触れることができる」等、一定規模で実現できる教育環境が特に重要と考えている傾向がある。また、保護者などと同様に「8. 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい」といった事項を重要と考えている傾向があるほか、教員独自の結果として、「6. 学級の枠を超えた習熟度別指導や、教員の役割分担による専科指導等の多様な指導が行いやすい」といった事項が重要と考えている結果となった。



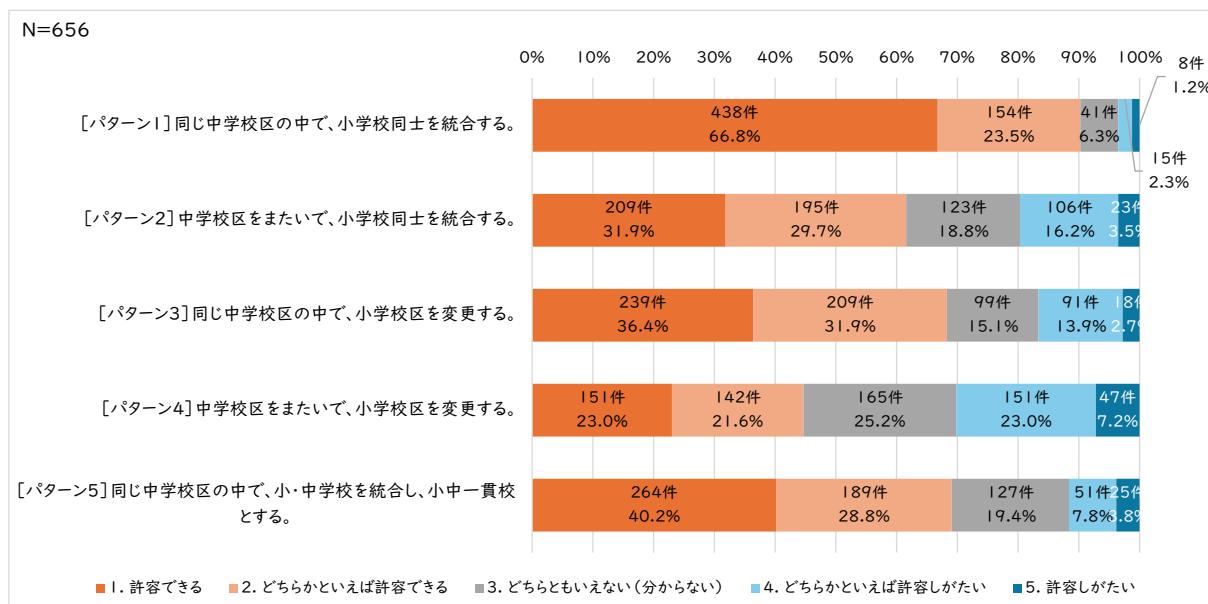
⑤ 問5 児童生徒数の減少やそれに伴う学級数の減少が推測されるなか、子どもたちにとってよりよい教育環境とするために、今後どのようにすることが望ましいと考えますか。(1つだけ選択)

▶ 「1. 現行の学校配置にこだわらず、積極的に学校再編を進めていくべきである。」と「2. 現行の学校配置を出来るだけ維持して欲しいが、子どもたちの将来を考えると、再編もある程度はやむを得ない。」で合わせて9割以上を占める結果となっている。



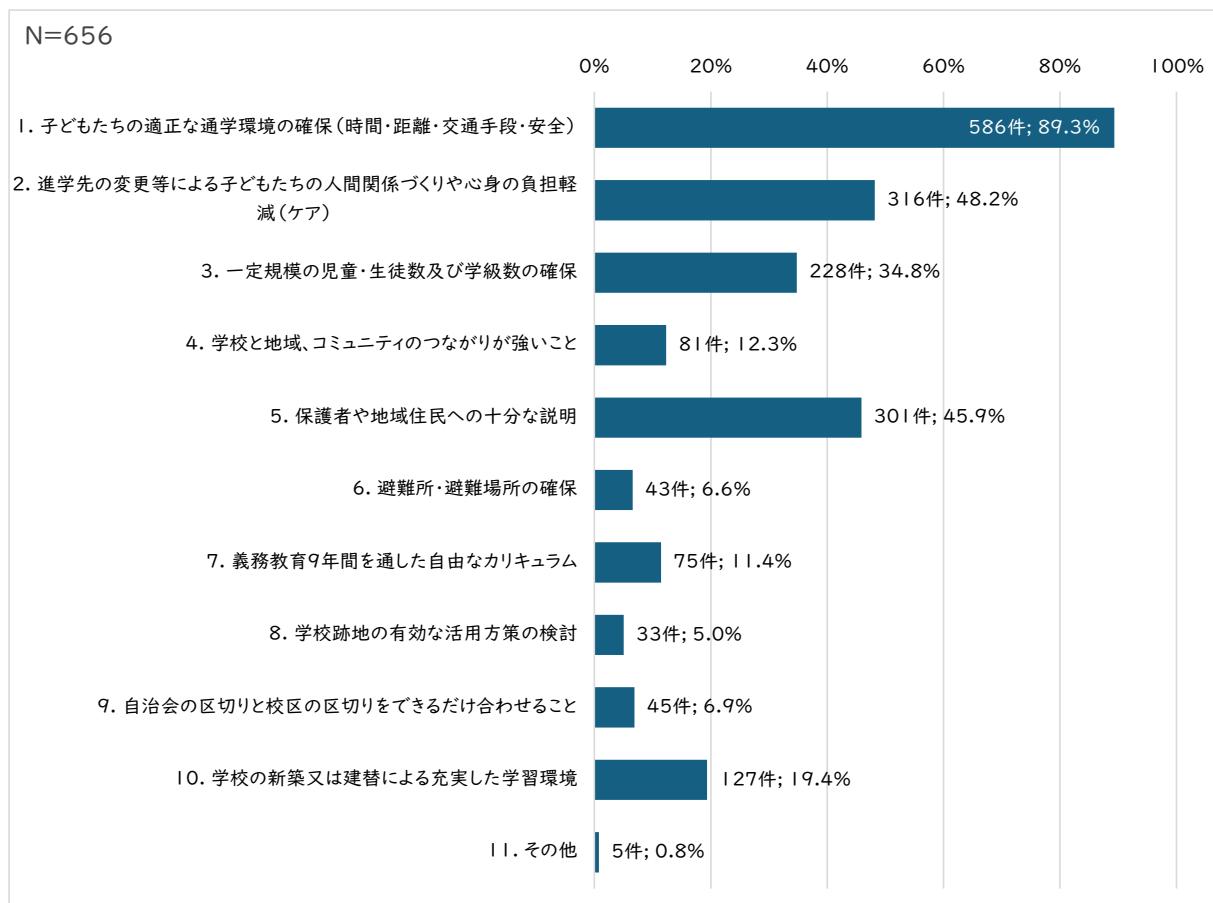
⑥ 問6 仮に、あなたのお住まいの近くの学校が再編の対象校になったとします。学校の再編には、色々なパターンが考えられます。下記にいくつかの再編パターンを例示しますので、それぞれのパターンについて、許容できるかどうか、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(1つだけ選択)

▶ パターン4以外は全て「1. 許容できる」と「2. どちらかといえば許容できる」の合計が半分を超える結果となっている。特にパターン1については「1. 許容できる」が6割を超える結果となっている。また、2番目に高い結果としてパターン5の小中一貫校が挙げられた。



⑦ 問7 再編が行われる場合、重視すべき事項について、当てはまるものをお選びください。(3つまで選択可)

▶ 「1. 子どもたちの適正な通学環境の確保(時間・距離・交通手段・安全)」が最も重視すべき事項として挙げられている。また、「2. 進学先の変更等による子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減(ケア)」や「5.保護者や地域住民への十分な説明」も比較的割合が高い結果となっている。



4) アンケート調査結果の総括

学校再編計画へアンケート結果を次の通り整理し、再編の資料として活用する。

① 問4 子どもたちの教育環境について、特に重要だと考えるものをお選びください。(3つまで選択可)

▶ 作成した設問は大きく一定規模以上の学校でのメリットと小規模校でのメリットに分類できる。その中で一定規模以上の学校にて実現できる教育環境の方が重要と考えている人が多いことが分かる。しかし、小規模校でのメリットを重視している人も一定数みられ、学校再編においては一人一人の学習状況に合わせた教育環境の整備について、ハード面・ソフト面の両方での対応が必要と想定される。

② 問5 児童生徒数の減少やそれに伴う学級数の減少が推測されるなか、子どもたちにとってよりよい教育環境とするために、今後どのようにすることが望ましいと考えますか。(1つだけ選択)

▶ ほぼ全ての人が学校再編を許容していることが分かる。また、学校再編を進めるべきと考える人が現行の学校規模を維持するべきと考える人よりも多いことが分かる。

③ 問6 仮に、あなたのお住まいの近くの学校が再編の対象校になったとします。学校の再編には、色々なパターンが考えられます。下記にいくつかの再編パターンを例示しますので、それぞれのパターンについて、許容できるかどうか、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(1つだけ選択)

▶ 保護者等・一般市民・教員のすべての結果において、同様の結果が見られ、パターン4以外については、どちらかといえば許容できる人が過半数を超えていた傾向がみられた。
パターン1が最も多く、中学校区の中で小学校単位をできる限り維持しながら再編していくことが望まれている。また、パターン5が次いで多く、小中一貫校化への許容度も高いことがうかがえる。

④ 問7 再編が行われる場合、重視すべき事項について、当てはまるものをお選びください。(3つまで選択可)

▶ 適切な通学環境の確保を最も重視していることが分かる。そのため、学校再編案を検討する上では通学距離や学校区割の変更により影響を受ける児童生徒に対して、スクールバスといった通学手段などの検討が必要である。
また、当事者である子どもたちに対する学校再編での負担軽減についても重視している傾向があることから、児童生徒同士の事前交流といった人間関係づくりの検討が必要である。